

文科省に聞く！

理系割合を50%にする展望の下 大規模、長期的な支援策を設計

DXや脱炭素に向けた取り組みが世界中で加速度的に進展し、各国がそれらを成長力の源泉とする中で、日本においては、デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する専門人材の不足が指摘されています。その要因の一つが、学部段階での理系人材の少なさです。この状況を憂慮した教育未来創造会議から、大学の学部再編促進の必要性が指摘され、「大学・高専機能強化支援事業」の創設に至りました。

現状、理系分野の学位取得者の割合は35%にとどまり、大学に入学した女性のうち理工系学部所属するのはわずか7%と、男女のバランスも欠いています。これらを総合的に高め、将来的に理系学生の割合を世界で最も高いレベルまで引き上げたいとの考えが、事業の背景にあります。

国内大学全体の学部構造の転換、しかも、一般的に高度な設備が必要となる理工農系への転換を図るわけなので、部分的、一時的な施策では実現できません。広範な支援を長期的に行うために、本事業では3,002億円の予算を確保し、基金化しています。単年度ごとに予算要求する形ではないので、事業規模が縮小したり事業そのものが中止になったりする心配はありません。支援1の選定予定件数250件程度は、1件あたり10億円前後を想定したあくまで目安で、基金に余裕があれば、それ以上の申請も受け付けることが可能と考えています。審査基準も、ふるいにかけて競争を促すイメージではなく、要件を満たしていれば積極的に選定することとしています。

早期実施や大学全体の定員を増やさない計画には助成率を優遇

成長分野の人材不足は待ったなしの状況で、育成を急ぐ必要があります。そこで、2027年度以前の公募において支援1に選定された計画は「先発組」として、フェーズ2の助成率を優遇します。助成金額は、理工農系の入学定員が計画実施前よりどれだけ増えたかをベースに算出されます。大学全体の定員を増やさない計画の場合にも、助成率を優遇します。18歳人口減少下では大学全体の定員を純増させるのではなく、規模を抑制して理工農系の割合を増やす取り組みが望ましいためです。

これまで経験のない大学が理工農系に挑戦するのは簡単ではないでしょう。そのために、フェーズ1として、検討体制の構築等の段階にも助成金を出す異例のしくみを整えました。万一、設置認可に至らなくても、検討体制の構築等に要した助成金は返還を求めません。また、申請要件に他大学との連携を含めてい

理工農系分野志望者を増やす手立ては？ ——基金による学部再編支援と共に、中高生への取組等を通じて総合的に推進

文部科学省
高等教育局 専門教育課
課長*

塩田 剛志

しおたつよし ●1996年文部省(当時)入省。文部科学省高等教育局専門教育課専門職大学院室長、内閣府政策統括官(科学技術・イノベーション担当)付参事官、科学技術・学術政策局企画評価課長などを経て、2022年より現職。
*取材当時



るのは、単位互換制度や共同教育課程制度の活用など、他大学とリソースを共有した計画も視野に入れているためです。支援1では教員の人件費は支援対象外ですが、教員数が確保できない際は、大学設置基準の改正で新しく導入された基幹教員制度を活用すれば、他学部、他大学、企業所属の教員の登用も行いやすくなります。社会ニーズに合った人材育成を促進する観点から、複数の企業等と設置構想の事前協議を申請要件としており、そうした場も活用しながら、地元企業等と補い合って設置する方策も検討してみてください。なお、「理工農の学位授与まではできないが、既存の人社系の教育の中にデジタルの学びを加えたい」という声に応えるべく、本事業とは別の支援策も検討中です。例えば、「芸術×デジタル」のような取り組みへの支援を想定しています。

人口減による厳しい経営環境を 乗り切るための踏切板として

本事業をはじめとする支援を通じて大学に理系の学部・学科が増えることにより、中高生の理系進学への関心が高まるのが理想ですが、大学からの積極的なアプローチもやはり必要でしょう。例えば、同じ高等教育機関である国立高専では、小中学生向けにプログラミング等の出前授業を実施するなど、すそ野を増やす活動を行っています。地域の教育委員会と連携して、大学・高専ならではの視点から、理系の学問の楽しさを伝えるなど、市場を開拓する取り組みに期待しています。高等教育局としても、基金のみならず、理系志向の児童・生徒を増やす方法を探っていきます。

成長分野をけん引する人材を増やすことが目的の事業ですが、各大学には人口減の厳しい時代を乗り切る観点からも、本事業の積極的な活用をご検討いただければと考えています。お気軽にお問い合わせください。

初回の選定結果

(件)

	国立	公立	私立	高専	合計
支援1	—	13	54	—	67
支援2	37	4	5	5	51